

第5章 農村環境の保全対策と計画の推進

本章では、農村環境計画の実行性を確保するための推進体制について明示します。

- 5.1 環境保全対策の方針
- 5.2 計画の推進



新潟市中央区清五郎
～冬・餌をついばむハクチョウ～

第5章 農村環境の保全対策と計画の推進

5.1 環境保全対策の方針

農業農村整備事業の実施にあたっては、事業計画作成の段階から環境への配慮を基本として検討を行います。

環境への配慮は、社会の変化に対応して柔軟性を持って継続的、効率的に進めることが重要であり、事業実施後の維持管理についても行政・農業従事者・市民が一体となって環境を保全する管理体制づくりが不可欠です。

環境保全対策の方針としては、地域の環境特性の把握や環境アセスメント、既存の生態系調査資料を活用し、対応方策を検討するとともに、地域が一体となった保全活動も併せて推進していきます。

また、環境対応方策の効果がどの程度上がるかを把握または、検証するため定期的にモニタリングを行い、その結果によって必要に応じて計画の変更や見直しなどを柔軟に行っていきます。

さらにモニタリング結果を公表するなど、継続的な環境保全には行政だけではなく、農業従事者、市民が常に参加しているという意識を促すことも必要です。

常に変化する地域の状況や時代の流れによって、地域の特性は変化していきます。

地域の特性、それに伴う社会環境、自然環境を定期的に整理しておくことは環境保全に関わる市民意識を高める上でたいへん重要です。また調査結果は、常に関係各部署において共有することによって、他の各種計画の策定・事業の実施においても対策への有効活用が可能となります。

5.2 計画の推進

5.2.1 計画の実行性の確保

新潟市農村環境計画は、今後の農業・農村づくりの基本原則となる目標や方針と各種対応策を示しています。具体的な整備・取り組みに関しては、記載したもの以外にも、各々の事業や地域の特性に合わせ適切な対応が必要です。

農業農村整備事業の計画・実施にあたっては、「環境への対応方策」や「エリア・ゾーン」の設定状況を確認し、その事業や地区にふさわしい環境配慮の手法や環境保全措置などを検討した上で、保全計画を確実に実行していくことになります。

計画の実行性を高めるためには、市民が農村環境保全への興味や関心を高め主体的に保全活動に参加していくような仕組みづくりが併せて必要です。計画の市民への周知とともに、その後の状況、目標の達成状況などを広く公表したり、シンポジウムやワークショップをはじめ、市民が参加できるイベントや自然とふれあう機会を設けたりしながら、農村環境の保全へ理解を促します。

5.2.2 計画の進め方

農村環境の保全を効果的に進めるためには、事業の各段階の適切な時期に進行管理を行うことが重要です。進行管理は環境マネジメントシステムの考え方に基づいて

「計画」(PLAN) → 「実施」(DO) → 「評価」(CHECK) → 「見直し」(ACTION)
を繰り返し行うことが必要です。

農業農村整備事業の計画策定においては、各事業における構想や基本的な考え方などを新潟市農村環境計画と整合させることが必要です。この際にも、地元住民の意向を反映させるために、ワークショップを開催する等、有識者の意見を参考に工法や手法、今後の維持管理方法などを検討した上で、地元との調整を図りながら保全計画を進めます。

5.2.3 計画の推進体制の整備

新潟市農村環境計画を適切に活用し、推進していくためには、関連部局内での連携が重要になります。そのため、各種の調整や進行管理を行うための行政内の総合的な推進体制を確立していくことが重要です。

新潟市農村環境計画に基づいて、各種事業や施策を推進するにあたっては、主体となる農業従事者や地域住民の農村環境への理解が非常に重要です。地元主体での取り組みが行われるような体制の確立が必要であり、そのためには行政、農業従事者、地域住民、有識者などが協力し調査、構想策定、計画策定、実行、評価、改善の各段階において意見交換を行うなどが必要です。

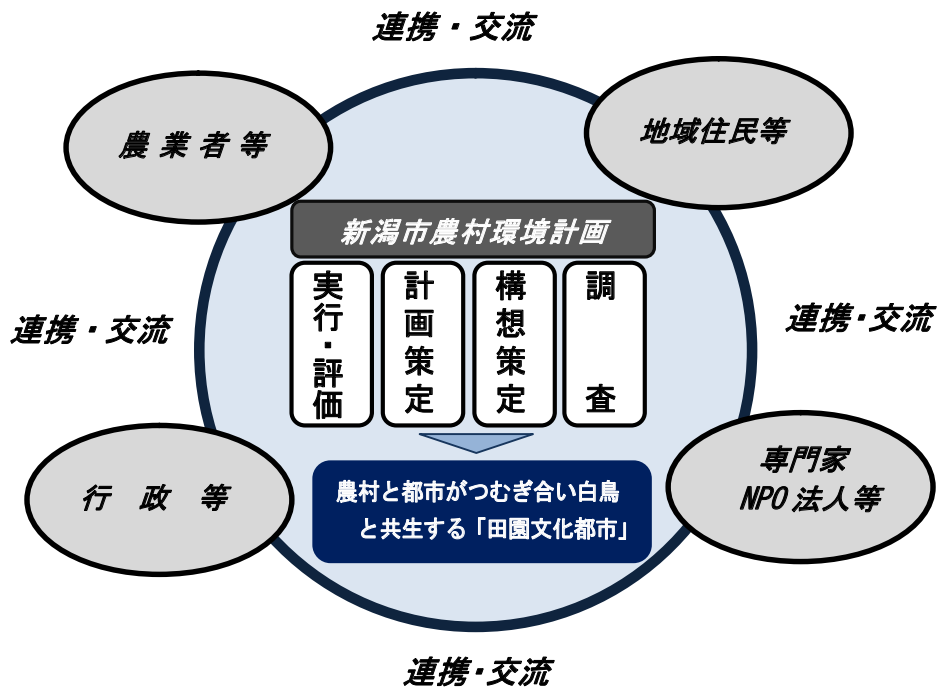


図 5-1 計画推進体制イメージ図

5.2.4 今後の展開

新潟市農村環境計画の策定により、農業農村整備事業を実施する際は、生産基盤の整備と併せた生態系・生物多様性の保全や美しい景観の形成など、農村環境の広域的な保全と地域づくりの取り組みを推進します。

新潟市は、豊かな自然の中でおいしい農作物を生産し、全国トップの食料生産拠点としての役割を担うとともに、全国に誇る安心・安全な新潟ブランドを作り出してきました。新潟市の農産物の付加価値は、豊かな自然そのものであり環境配慮した生産基盤の整備や、環境保全型農業の推進などを広域的に取り組むことで、信頼のブランドを将来にわたって維持・拡大していきます。

さらに、農業農村の多面的機能に目を向け、地域文化や環境の保全、地域防災などを踏まえた地域づくりや、魅力を創り出し、農村と都市が助け合う「田園文化都市 新潟」を目指します。

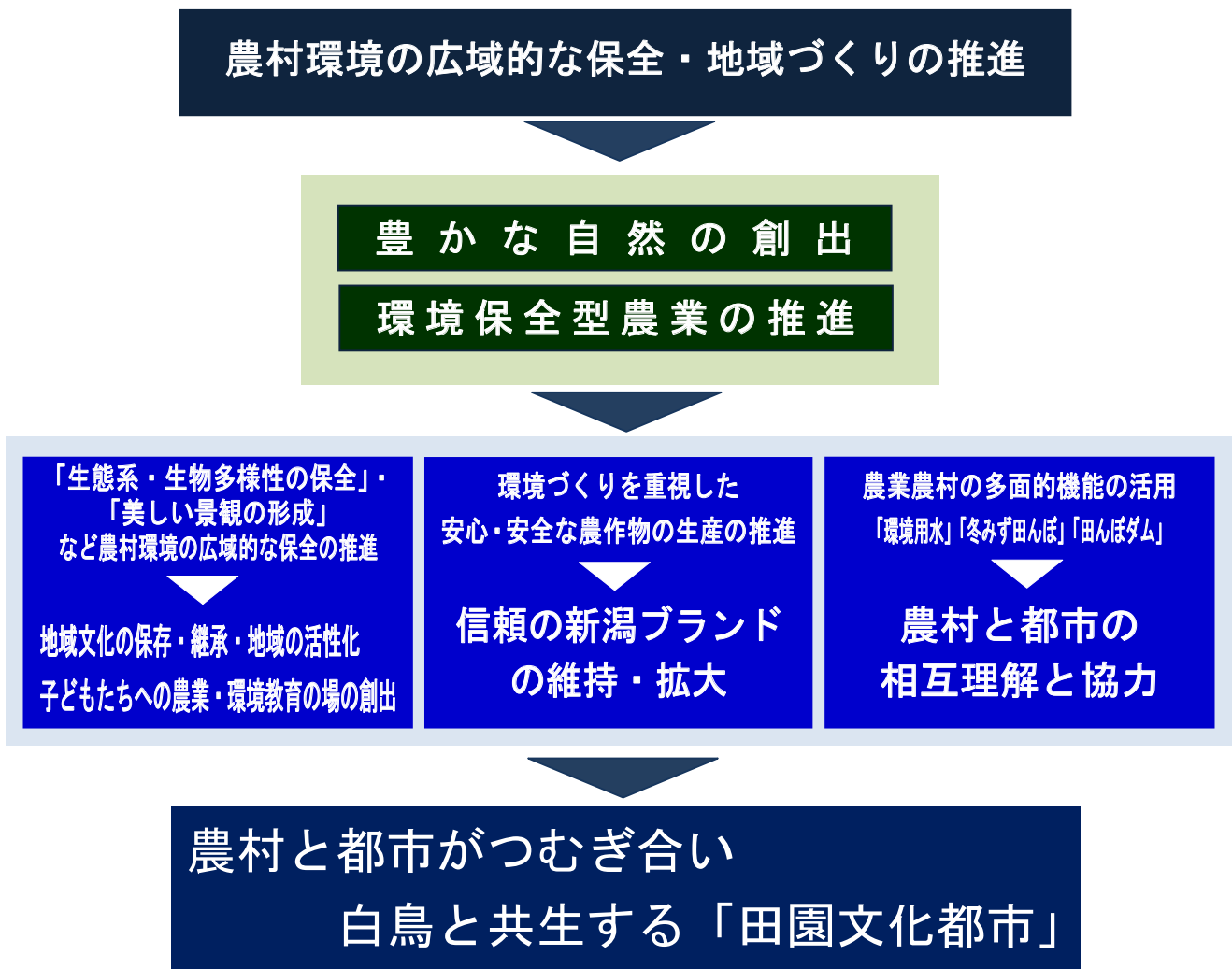


図 5-2 今後の展開



新潟市西蒲区夏井

